



その想い



第1号

発行人：谷泰智

平成27年6月7日発行

☆ 寺報発行にあたって

檀信徒皆様、改めまして護国寺住職の谷泰智です。早いもので先代住職の祖父が亡くなり早9年が経つ頃となりました。私は平成19年春に本山の修行から戻りました。住職を継いでからこれまでの日々、各檀家さんに支えられ、地域の方々に助けられながら、御陰様で本堂改築という一大事を経て、振り返れば8年の月日が過ぎておりました。昨年には阿闍梨アジャリとしての伝法を授かり、ようやく僧侶としての形だけは整ったように感じております。

そんな拙僧が前々から憂いておりましたのが、現代仏教の力不足です。その原因は、私も含めた僧侶全体の活動が、本来の『良く生きるための仏教』から、葬儀や埋葬に関わる儀礼的な慣習へと、重きを置いてしまっている事にあるのではないかと思います。

そんな状況を少しでも変えるべく、この度より、定期的に寺報を発行していくことに致しました。寺報とは、つまり寺からの便りのようなものです。まずは年2回（盆前と暮れ）に全檀信徒皆様のもとへ配布させていただきます。この寺報は5つの構成になっております。

- 一、 時事、季節、随想などを交えた住職からの挨拶
- 二、 法事や日々のお祀りに関した供養のあれこれ
- 三、 檀家さんそれぞれが、御先祖様、お仕事、ご家族に向かう其の想い
- 四、 お経の内容を紹介し、少しでも現代生活に役立ててもらえるような法話
- 五、 行事のお知らせや、ご質問への回答など

何分、学の浅い私の知識や、憚りながらの法話ですが、回を重ねることで少しずつ向上していくつもりです。また、行事のお知らせでは新たな企画もあれこれと練っております。

この寺報が、皆様それぞれの大切な『その想い』をより深め、より弘めていく為の一助となれることを願っております。



護国寺の宗派は本山修験宗（天台系）です。
 本堂の御本尊は不動明王です。
 毎月28日は護摩を焚いています。

☆ 住職 谷泰智 挨拶



奈良県山上ヶ岳（標高1719M）の平等岩で。自分の手足だけが頼りです。（怖）

先月31歳になりました。ふと、「人はなぜ誕生日を祝っているんやろ？」という強引な疑問について考えてみたくなりました。一般的に我々は、老若男女家族友人の誕生日をお祝いします。私はそこに二つの意味を見出します。ひとつには、一年365日の中で今日というその日が誕生日だから「365分の今日やね！」というお祝い。ふたつには、今日まで丸〇〇年生きてこれたことへのお祝い・・・。

どちらかという、我々はひとつめの方のお祝いに偏りがちではないでしょうか。いついつはあの人のお誕生日やからとプレゼントを考えてワクワクしたり（頭を悩ませたり？）、また小さいお子さんはあと何日で誕生日や～！と指を数えて待ち遠しかったり。どうしてもその365分の1の日に拘ってしまいます。けれども改めて考えてみると、その1日に拘るよりも、誕生日の辺りから見渡して、その人が今日まで頑張って歩いてきたその事実をお祝いすることのほうが、より素敵に感じるの私だけでしょうか。

お年を召した方には誕生日を厭われることもあるかもしれませんが、良いこと嫌なこと全部丸呑みで、とにかく歩いて生きてきたことをお祝いする、そんな日が1年のうち1日は、きっと必要なんじゃないかと思います。そして若い世代の方々にも同じように、生きてきて今存在している唯そのことに思いを馳せ、自分を祝って欲しいのです。さらには不思議を持って欲しいのです。

不思議とは、疑問に思うということではなく、「ようわからんけど・・・なんか凄くない!？」と言えるような、純粹で素直な喜びだと思います。

時は金なり、とはよく言いますが「時は命なり」、とある坊さんは言いました。そしてその命は、『ひとり一宇宙』の不思議で大切なもの・・・。きっと365分の1より凄いことだと私は思っています。